BUFFALO

AirStation^{TM} Pro
WLAH-AM54G54/WLAH-G54
設定ガイド

はじめに

本書「設定ガイド」では、おもにWebブラウザを使って本製品を設定する方法を説明します。

対象読者および範囲

本書は、無線LANの設定を担当するネットワーク管理者を対象にしています。本書を使用するには、有線LANおよび無線LANの概念と専門用語に、ある程度精通している必要があります。

構成

このガイドは次の4つの章で構成されています。

第1章　機能概要

本製品の機能の概要と、無線LANにおける本製品の役割を説明しています。

第2章　管理インターフェースの使用

本製品の設定に使用するインターフェースを説明しています。

第3章　本製品の設定と管理

Webブラウザを使って表示する設定画面での設定項目と管理情報を説明しています。

第4章　リピータ機能

リピータ機能の設定方法を説明します。

本書の使いかた（文中マーク／用語表記）

本書を正しくお使いいただくための表記上の約束ごとを説明します。

注意マーク　⚠注意

製品の取り扱いにあたって注意すべき事項です。この注意事項に従わなかった場合、身体や製品に損傷を与えるおそれがあります。

メモマーク　メモ

製品の取り扱いに関する補足事項、知っておくべき事項です。

参照マーク　▶参照

関連のある項目のページを記しています。

- 文中[　]で囲んだ名称は、操作の際に選択するメニュー、ボタン、テキストボックス、チェックボックスなどの名称を表わしています。
- 本書では原則として、弊社製無線LANカードを装着したパソコンを無線パソコン、本製品を設定するパソコンを設定用パソコンと表記しています。

- ケーブルで接続された10/100BASEのLANとケーブルを使用しない無線LANを明確に区別するために、本書では次の用語を使用しています。
  有線LAN...ケーブルで接続されたLAN
  無線LAN...無線通信を使用したLAN
  上記は、説明のために本書のみで便宜上使用する用語であり、一般的には使用されません。あらかじめご了承ください。

困ったときは

- 無線による通信ができない場合は、パソコンにインストールされているドライバおよびクライアントマネージャ3のバージョンが古い可能性があります。付属のエアナビゲータ CDを使って、ドライバおよびクライアントマネージャ3をバージョンアップしてください。
- 弊社製無線LAN製品全般に関するトラブルシューティング情報が、付属のエアナビゲータCDにHTML形式で収録されています。情報を参照するには、CDをパソコンにセットしてエアナビゲータを起動し、[マニュアルを読む]をクリックします。
- その他の最新のサポート情報は、AirStationコミュニティサイトairstation.com(http://www.airstation.com/)、またはサポートページ(http://buffalo.jp/qa/b-solutions/)を参照してください。
- 本製品のお問い合わせなどについては、本書の裏表紙をご参照ください。

目　次

第 1 章　機能概要

本製品は、無線LANのアクセスポイントです。無線LANと有線LAN間の接続ポイントとして機能します。無線クライアントが本製品の通信範囲内にあれば、複数のアクセスポイントのうち最もつながり易いアクセスポイントに自動的に接続するので、施設全体を移動しながら途切れることのない通信をすることができます。

1-1　主要機能

本製品の主要機能は次の通りです。

- **システムのセキュリティ**：設定画面へのパスワードでの制限、WEP/TKIP/AESを使用したデータの暗号化設定、MACアドレスによる無線クライアントの制限、大規模ネットワークでの接続制限の集中管理が可能なWL-ADT（別売のアクセスポイント集中管理ソフト）に対応しています。
- **簡易フィルタリング**：簡易フィルタを設定して、無線／有線LANからの本製品の設定を禁止したり、他のアクセスポイントを経由してアクセスしているパソコンからの設定を禁止したりすることが可能です。
- **WDSモード（アクセスポイント間通信）／リピータ機能搭載**：6台までのアクセスポイント間無線通信に対応しています。また、電波到達範囲の拡大、死角エリアへの中継が可能です。
- **PoE（Power over Ethernet）対応**：LANケーブルからの電源供給をサポートします。電源供給のための工事・設置費用が不要であるため、経費節減に効果があります。
  ※ 別途PoE受電モジュールとPoE給電モジュールが必要です。

1-2　本製品の管理インターフェース

本製品の設定には、Webブラウザを使用します。

第２章 管理インターフェース

この章では、本製品の設定に使用するインターフェースを説明します。本製品の設定には、Webブラウザを使用します。

Webブラウザの使用

Webブラウザを使用した設定画面には、本製品の設定変更、および、ネットワーク上にある無線クライアントの監視に使用するページがあります。

メモ 設定画面を表示するには、Internet Explorer 5.0以降またはNetscape 6.0以降がパソコンにインストールされている必要があります。

Webブラウザから設定画面を表示する

AirStation Admin Tools Liteを使って設定画面を表示するには、次の手順に従ってください。

メモ 本製品に適切なIPアドレスが既に設定されている場合は、直接ブラウザを開き、設定画面を表示することもできます。その場合は、アドレス欄に本製品のIPアドレスを入力し、[Enter] キーを押してください。

1. [スタート] − [プログラム] − [BUFFALO] − [エアステーションユーティリティ] − [AirStation Admin Tools Lite] を選択して、AirStation Admin Tools Liteを起動します。

参照 AirStation Admin Tools Liteがインストールされていない場合は、「導入ガイド」の「第3章 基本設定」−「3-3 有線LANで接続して本製品を設定する」を参照して、インストールしてください。

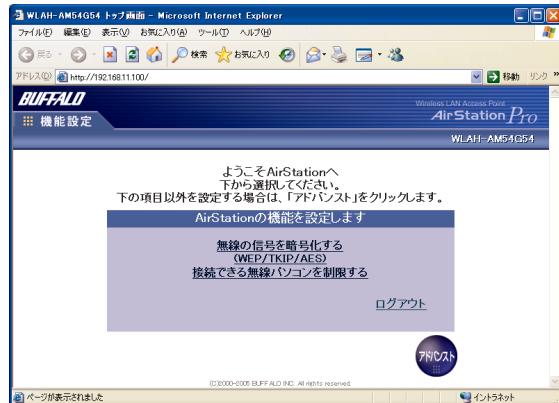
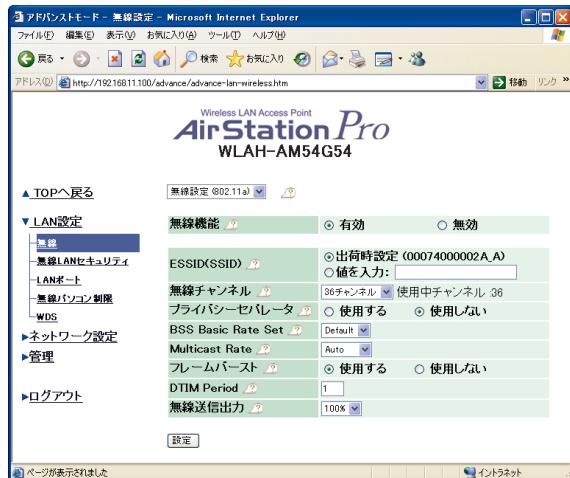
2. AirStation Admin Tools Liteが起動すると、本製品が検索されます。

メモ デフォルトのエアステーション名は、APの2文字にMACアドレス12桁を加えた文字列です。

3. まだ本製品に有効なIPアドレスが設定されていない場合は、検索された本製品を選択して、[ツール] − [IPアドレス変更] を選択します。IPアドレスの設定画面が表示されたら、IPアドレスを設定し、[実行] をクリックします。

   既にIPアドレスが設定されている場合は、検索された本製品を選択して、[編集] − [設定画面表示] を選択します。

4. ユーザー名（root）とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

5. 設定画面が表示されます。
この画面では、暗号化の設定やアクセス制限について、簡易的な設定を行うことができます。詳細な設定を行うには、画面右下の［アドバンスト］をクリックします。

アドバンスト画面では、左側のメニューをクリックすると、右側に設定項目や管理情報が表示されます。

メモ

・上記の画面は、WLAH-AM54G54のものです。WLAH-G54には「無線設定(802.11a)/無線設定(802.11g)」の項目はありません。

・各設定画面にある［?］マークをクリックすると、ヘルプが表示されます。

⚠注意 **設定画面で入力した内容は、［設定］などのボタンをクリックしたときに反映されます。ボタンをクリックする前に、ブラウザの［戻る］をクリックしたり、左画面のメニューをクリックしたりすると、入力した内容は反映されません。**

第３章 本製品の設定と管理

この章では、Web設定画面に表示される設定項目と管理情報について説明します。
この章は、Web設定画面のメニュー順に、以下のセクションから構成されています。

3-1 無線

この画面には次の設定項目があります。(上の画面はWLAH-AM54G54のIEEE802.11aでの設定画面です)。

- 無線機能
- 無線モード (IEEE802.11gのみ)
- ESSID(SSID)
- 無線チャンネル
- プライバシーセパレータ
- BSS BasicRateSet
- フレームバースト
- 802.11gプロテクション (IEEE802.11gのみ)
- DTIM Period
- 無線送信出力

メモ 本製品のAOSS機能を使用している場合、無線機能やESSID(SSID)が自動的に設定されるため、手動で設定することはできません。

3-1-1 無線機能

本製品に搭載されている無線カードの動作を、有効または無効にできます。

3-1-2 無線モード（IEEE802.11gのみ）

無線通信の方式を次の中から設定します。

・ 11g(54M)-Turbo
・ 11g(54M)/11b(11M)-Auto（デフォルト）
・ 11b(11M)-WiFi

▶参照 各方式の違いについては、ヘルプ を参照してください。

3-1-3 ESSID(SSID)

無線通信で使用するESSID(SSID)の設定をします。無線パソコンが本製品を経由して有線LANと通信するには、ESSID(SSID)と暗号化キーを一致させる必要があります。ESSID(SSID)の値は、1〜32文字の半角英数字記号を使って入力します。英字の大文字と小文字は区別されます。

メモ 本製品のAOSS機能を使って無線パソコンを接続すると、ESSID(SSID)が変更されます。変更された設定内容を確認するには、本製品の設定画面から［アドバンスト］-［管理］-［AOSS］の順にクリックしてください。「現在の暗号化情報」欄に変更された設定内容が表示されます。

3-1-4 無線チャンネル

無線通信で使用する無線チャンネルの設定を行います。無線パソコンが本製品経由で通信するときは、自動的に本製品の無線チャンネルに設定されます。設定できる無線チャンネルは、次のとおりです。

・IEEE802.11a：36／40／44／48／52／56／60／64ch（デフォルト：36ch）
　(WLAH-AM54G54のみ)
・IEEE802.11g：1〜13ch（デフォルト：11ch）

※52、56、60、64chに設定した場合、気象レーダーとの干渉を防ぐため、設定できないことがあります。
※52、56、60、64chに設定した場合、WDSで通信することができません。

3-1-5 プライバシーセパレータ

プライバシーセパレータ機能を使用すると、本製品に接続している無線パソコン同士が通信できなくなります。

⚠注意 **有線LANと無線LAN間、IEEE802.11aとIEEE802.11g間およびWDS(アクセスポイント間通信)経由で通信することは可能です。**

3-1-6 BSS BasicRateSet

Basic Service Set Basic Rate Set。無線パソコンと制御通信時の通信速度を設定します。

▶参照 詳細は、ヘルプ を参照してください。

3-1-7 Multicast Rate

マルチキャストパケットの通信速度を制御できる機能です。この値を上げることで、マルチキャストの通信速度を上げることができます。
下記のいずれかの設定が可能です。
802.11a: Auto, 6, 9, 12, 18, 24, 36, 48, 54 Mbps （WLAH-AM54G54のみ）
802.11g: Auto, 1, 2, 5.5, 6, 9, 11, 12, 18, 24, 36, 48, 54 Mbps

3-1-8 フレームバースト

転送時にフレームを連続して送信することにり、通信速度を向上させることができます。

メモ
・ フレームバーストの設定を有効にするには、この設定に対応した無線機器を使用する必要があります。対応無線機器に関する情報は、弊社ホームページ（86886.jp）の製品別Q&Aを参照してください。
・ 複数の無線パソコンがフレームバーストモードで動作しているときは、通信速度が向上しないことがあります。

3-1-9 802.11gプロテクション（IEEE802.11gのみ）

IEEE802.11gと同じ無線チャンネルに存在するIEEE802.11b無線機器の通信を抑制してから、IEEE802.11g無線機器の通信をおこないます。
IEEE802.11gネットワークとIEEE802.11bネットワークが近くに存在し、それぞれのネットワークが同じ無線チャンネルを使用している場合、電波干渉により、IEEE802.11g無線機器の通信速度が低下する場合があります。このような場合に802.11gプロテクション機能を使用すると、通信速度の低下を緩和することができます。

3-1-10 DTIM Period

Delivery Traffic Identification Maps Period。無線パソコンに通知するビーコン応答間隔の設定を行います。（送信間隔は常に100msで一定です）
この設定を省電力に使用するには、無線パソコン側でも、パワーマネージメントの設定を有効にする必要があります。入力値は1～255で、応答を間引くビーコンの数を設定します。この値が大きいほど省電力効果は高まりますが、無線LANの応答が遅くなります。通常は1に設定してください。

3-1-11 無線送信出力

無線の送信出力を小さくすることにより、無線パソコンとの通信距離を短くすることができます。通常、この値を変更する必要はありません。

3-2 無線LANセキュリティ

この画面には次の設定項目があります。（上の画面はWLAH-AM54G54のIEEE802.11aでの設定画面です）

・ ANY接続
・ データの暗号化
・ EAP認証(WPA)

メモ 本製品のAOSS機能を使用している場合、無線LANセキュリティ設定(ANY接続、暗号化)は自動的に設定されます。手動で設定することはできません。

3-2-1 ANY接続

無線パソコンからのANY接続を許可／禁止する設定を行います。

メモ ANY接続とは、無線パソコンのESSID(SSID)を「ANY」に設定した場合、または、ESSID(SSID)に何も設定しない場合に、無線信号レベルが一番良い状態のアクセスポイントに接続することです。この場合、アクセスポイント(AirStation含む)のESSID(SSID)に関係なく接続が可能です。ただし、暗号化の設定をしている場合、暗号化キーが一致しないと通信はできません。

※ANY接続を禁止に設定した状態で、Windows XPの標準無線接続機能をご利用の場合、無線接続ができなくなることがあります。

3-2-2 データの暗号化

無線の信号を暗号化する設定を行います。暗号化の種類はWEP、TKIP、AESの3つから選択できます。WEPを選択した場合は、暗号化キー(文字入力の場合は5文字または13文字の半角英数字記号、16進数入力の場合は10桁または26桁)を入力します。TKIP/AESを選択した場合は、事前共有キー(文字入力の場合は8～63文字の半角英数字記号、16進数入力の場合は64桁)とキー更新間隔(0秒※または60秒～3600秒)を入力します。

※ キー更新間隔を0秒に設定すると、暗号化キーは更新されません。

メモ 本製品のAOSS機能を使って無線パソコンを接続すると、暗号化の設定が変更されます。変更された設定内容を確認するには、本製品の設定画面から［アドバンスト］-［管理］-［AOSS］の順にクリックしてください。「現在の暗号化情報」欄に変更された設定内容が表示されます。

メモ TKIPやAESを使用する場合、以下の制限事項があります。

・ 対応プロトコルは、TCP/IPのみになります。TCP/IP以外のプロトコルにつきましては、動作保証対象外となります。
・ 無線アダプタ、無線接続ツールなどがTKIPやAESに対応している必要があります。
・ 弊社製TKIP/AES対応無線アダプタをお使いの場合は、クライアントマネージャが必要です。インストールされていない場合は、付属の「エアナビゲータ CD」からインストールしてください。
（クライアントマネージャのインストールには、Internet Explorer5.5以降が必要です)
・ 他社製無線アダプタや無線機能を内蔵したパソコンをお使いの場合は、無線アダプタやパソコンのマニュアルを参照してください。
・ TKIP、AESはWEPと併用できません。
・ 802.11aと802.11gの両方でTKIPを使用することはできません。
・ WDS/リピータ機能を使用する場合は、暗号化をOFFにするかWEPを使用する必要があります。TKIP、AESを使用すると、通信できません。
・ TKIPやAESを使用して接続できる無線パソコンは、50台以下です。
（理論的には50台まで接続可能ですが、実用的な通信帯域を保証するものではありません)

3-2-3 EAP認証

EAPによる認証の設定を行います。EAP認証を使用することで、本製品への接続をユーザー毎に認証することができるため、アクセス制限やログの管理などのきめ細かいシステム運用が可能になります。
また、ユーザー認証毎に異なる暗号化キーを自動で配布するため、強固なセキュリティが構築できます。
EAP認証を行う場合は、別途EAP認証サーバ(AirStationRadius等)を構築し、「認証サーバ」、「認証ポート」、「Shared secret」の設定を行ってください。

認証しない/する： RADIUS認証プロトコルを用いて、認証を行うかどうかを設定します。

認証サーバ： RADIUSサーバのIPアドレスを設定します。
ドメイン名での指定はできません。

認証ポート： RADIUSサーバの認証ポートを設定します（デフォルトポート番号：1812)。一部の古いシステムでは、デフォルトで1645番を使用していることがあります。

Shared secret： RADIUSサーバと本製品の間の通信パケットの送受信に使われる暗号化キーです。サーバで設定されている値と同じ値を指定してください。1～256文字の半角英数字記号を使って設定します。

⚠注意 **EAP認証の設定を行うと、本製品のAOSSボタンを押しても、AOSSが動作しなくなります。**

メモ

- EAP認証を使用するには、無線パソコンとRADIUSサーバがともにEAPに対応している必要があります。
- 対応するEAPタイプは、TLS、TTLS、PEAPです。
- 認証時に使用できる暗号化は、WPAのみです。

3-3 LANポート

この画面には次の設定項目があります。
・IPアドレス
・デフォルトゲートウェイ
・ DNSサーバ

3-3-1 IPアドレス

本製品のIPアドレスとサブネットマスクを設定します。

3-3-2 デフォルトゲートウェイ

本製品のデフォルトゲートウェイを設定します。

IPアドレスを手動設定する場合は、デフォルトゲートウェイを入力します。ゲートウェイが存在しないときは、空欄にします。

IPアドレスをネットワーク上のDHCPサーバから自動取得する場合は、空欄にします。その場合、デフォルトゲートウェイのIPアドレスを自動取得することができます。

3-3-3 DNSサーバ

名前解決に使用するDNSサーバを指定します。
DNSサーバの設定を行わない場合は、空欄にします。NTPサーバなどをFQDN（完全修飾ドメイン名）で指定する場合は、DNSサーバを設定する必要があります。

IPアドレスの設定を［DHCPサーバからIPアドレスを自動取得］に設定した場合、DHCPサーバ側にDNSの設定をすれば、DNSサーバのIPアドレスを自動取得することもできます。

3-4 無線パソコン制限

本製品への接続を許可する無線パソコンを手動で登録します。

3-4-1 接続可能MACアドレスの登録

無線パソコンのMACアドレスを設定します。[登録]をクリックすると、入力したMACアドレスの無線パソコンが、本製品に接続できるようになります。
MACアドレスの入力は、16進数で2文字ずつ「:」で区切って入力してください（例00:0D:0B:12:34:56)。MACアドレスは256個まで登録可能です。

3-4-2 MACアドレスによる接続制限

本製品への接続を制限するかどうかを設定します。制限をした場合、上記の「接続可能MACアドレスの登録」で登録したパソコンのみ本製品に接続できるようになります。

メモ 本製品のAOSS機能を使用している場合、この画面では設定を行うことはできません。[管理] － [AOSS] の画面（P35）で設定を行ってください。

3-4-3 ロードバランス(接続台数制限)機能

本製品に接続できる無線パソコンの台数を制限するかどうかを設定します。制限をした場合、あらかじめ設定した台数まで本製品に接続できます。それより多くの無線パソコンから接続要求があった場合、接続要求は拒否されます

3-4-4 タイマー機能

本製品に接続できる無線パソコンを時間により制限するかどうかを設定します。制限をした場合、あらかじめ設定した時間だけ本製品に接続できます。

3-5 WDS

※ WDSについての詳細は、第4章の「リピータ（WDS）機能」（P37）を参照してください。

この画面には次の設定項目があります。（上の画面はWLAH-AM54G54のIEEE802.11aでの設定画面です）

- アクセスポイント間通信(WDS)
- アクセスポイント（MACアドレス）の追加
- 通信可能なアクセスポイント（表示／削除）

3-5-1 アクセスポイント間通信(WDS)

無線通信において、WDSを有効／無効にします。また、アクセスポイント間通信のみを行うときは、WDS専用モードに設定します。

⚠注意

・ WDS通信するアクセスポイントは、同じ無線チャンネルである必要があります。
・ WDS専用モードを使用する場合、無線パソコンから本製品に接続できなくなります。
・ AOSSとWDSは同時に使用できません。WDSの設定をする場合は、AOSSを無効にし、暗号化の設定を手動で行う必要があります。

3-5-2 アクセスポイント（MACアドレス）の追加

WDS通信を行う相手側のアクセスポイントの無線側MACアドレスを、「通信するアクセスポイントのMACアドレス」欄に登録します。MACアドレスは6つまで登録できます。

MACアドレスは、16進数で2文字ずつコロン（:）で区切って入力してください（例00:0D:0B:65:43:21)。[追加] をクリックし、[登録・保存] をクリックすると入力したMACアドレスが登録されます。

⚠注意 **アクセスポイント間通信（WDS）をする双方で設定が必要です。**

3-5-3 通信可能なアクセスポイント（表示／削除）

現在通信可能なアクセスポイントの、無線側MACアドレスおよび転送モードを表示します。

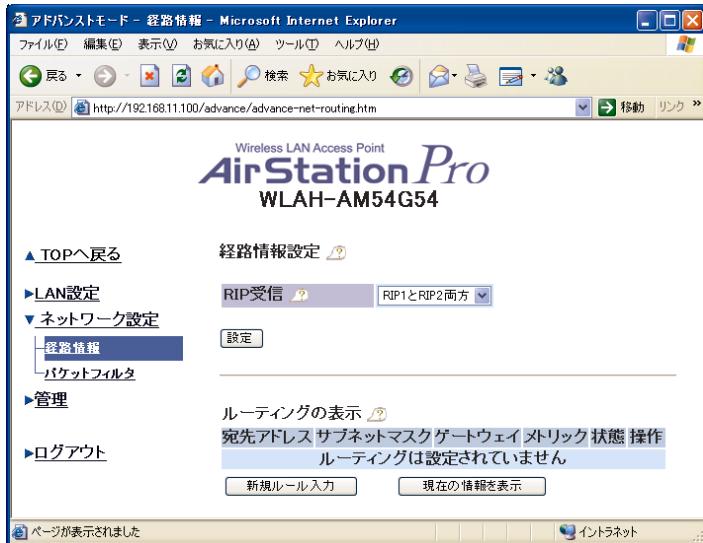
設定したMACアドレスを一覧から削除するときは、削除するMACアドレスの右の［削除］をクリックして、[登録・保存] をクリックします。

3-5-4 アクセスポイント間通信(WDS)の暗号化設定

WDS通信の暗号化は、「無線LANセキュリティ」(P13) にて行います。WDS通信する双方のアクセスポイントに同じ暗号を設定してください。

使用できる暗号は、WEP(64bit/128bit)までとなります。

⚠注意 **使用できる暗号設定はWEP(64bit/128bit)のみです。また、無線パソコン用セキュリティ設定と同一のものとなります。**

3-6 経路情報

この画面には次の設定項目があります。
・ 経路情報設定
・ ルーティングの表示

3-6-1 経路情報設定

本製品が受信するRIP情報を、次の中から選択します。
・ なし
・ RIP1
・ RIP2
・ RIP1とRIP2両方（デフォルト）

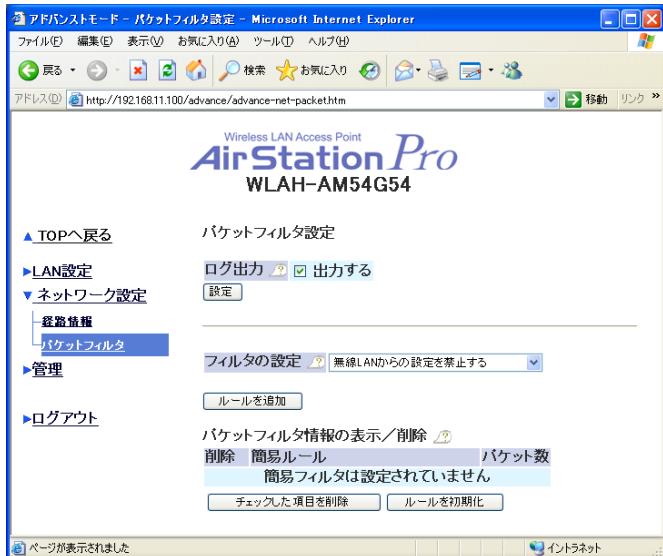
3-6-2 ルーティングの表示

経路情報（RIP情報）の設定を手動で行います。

宛先アドレス： 宛先のIPアドレスです。ルーティングの対象となる別のネットワークアドレスとサブネットマスクを入力します。

ゲートウェイ： ルーティング対象パケットを転送するゲートウェイのIPアドレスを入力します。

メトリック： 宛先アドレスに到達するまでに経由するネットワークの数です。1～15までの範囲で入力します。

3-7 パケットフィルタ

この画面には次の設定項目があります。

・ ログ出力
・ フィルタの設定
・ パケットフィルタ情報の表示／削除

3-7-1 ログ出力

パケットフィルタのログを記録するかどうかを設定します。
「出力する」にチェックマークをつけると、ログ出力を行います。

3-7-2 フィルタの設定

追加するフィルタを選択します。「ルールを追加」をクリックすると設定されます。

無線LANからの設定を禁止する：
　無線パソコンからアクセスポイントの検索と設定変更をすることを禁止します。

有線LANからの設定を禁止する：
　有線パソコンからアクセスポイントの検索と設定変更をすることを禁止します。

アクセスポイント越しの設定を禁止する：
　WDS通信時に、別のアクセスポイントを経由して本製品に接続しているパソコンから設定変更することを禁止します。

⚠注意「無線LANからの設定を禁止する」を設定すると、無線パソコンから本製品の設定を変更できなくなります。再度無線パソコンから設定できるようにするには、LANケーブルで本製品とパソコンを接続し、設定を元に戻してください。

3-7-3 パケットフィルタ情報の表示／削除

現在有効になっているパケットフィルタ設定の表示／削除ができます。

削除したい項目にチェックをつけ、［チェックした項目を削除］をクリックすると、項目を削除できます。また、［ルールを初期化］をクリックすると、デフォルトのパケットフィルタ設定に戻すことができます。

3-8 システム情報

この画面には次の項目があります。（上の画面はWLAH-AM54G54のものです）

・ 製品名
・ エアステーション名
・ 無線
・ 有線
・ ネットワーク

3-8-1 製品名
製品名とファームウェアバージョンを表示します。

3-8-2 エアステーション名
本製品に設定した名前を表示します。

3-8-3 無線設定
無線関連の各設定内容を表示します。
WLAH-AM54G54では、IEEE802.11aとIEEE802.11gの両方の設定内容が表示されます。

無線側のMACアドレス、内蔵無線カードのファームウェア、無線モード、ESSID(SSID)、無線チャンネル、フレームバースト、暗号化設定、プライバシーセパレータ、ANY接続、無線パソコン制限、WDS、無線送信出力、ロードバランス、タイマー機能

※　WLAH-AM54G54では、IEEE802.11aとIEEE802.11gの両方の設定内容が表示されます。

3-8-4 有線設定
有線側のMACアドレスを表示します。

3-8-5 ネットワーク
IPアドレス関連の各設定内容を表示します。

設定方法、接続状態、接続確立時刻、IPアドレス、サブネットマスク、プライマリ／セカンダリDNS、デフォルトゲートウェイ

※ 自動取得の場合は、以下の内容も表示されます。
　リース期限、ドメイン名、ホスト名、DHCPサーバ

3-8-6 IPアドレスの解放／書き換え（自動取得時のみ）
DHCPサーバからIPアドレスを自動取得している場合に、IPアドレスの解放／書き換えを行います。IPアドレスを解放した場合や、更新してIPアドレスが変更された場合は、本製品に接続できなくなります。その場合は、本製品の再起動、または、IPアドレスの再設定をしてください。

3-9 本体設定

この画面には次の項目があります。

・AirStation名
・管理ユーザ名
・管理パスワード

3-9-1 AirStation名

AirStation名の設定は必須ではありませんが、設定しておくと、別売のアクセスポイント集中管理ソフト(WL-ADT)を使用する場合、本製品を識別できるため便利です。

AirStation名のデフォルトは、「AP[有線側MACアドレス(12桁)]」が設定されています。

MACアドレスは、本体底面のシールに記載してある12桁の値です。

3-9-2 管理ユーザ名

設定画面にログインするためのユーザ名です。「root」以外に設定することはできません。

3-9-3 管理パスワード

設定画面にログインするためのパスワードを設定します。パスワードを設定するときは、「管理パスワード」を入力し、「確認用」にも同じパスワードを入力してください。

⚠注意 デフォルトではパスワードが設定されていませんので、必ず設定してください。半角英数字とアンダースコア（ _ ）を使い、1～8文字で設定してください。

3-10 時刻設定

この画面には次の項目があります。

- 設定時刻
- NTP

3-10-1 設定時刻

本製品の内蔵時計を手動で設定します。

⚠注意 本製品の電源をOFFにすると、内蔵時計もリセットされます。

3-10-2 NTP

NTPサーバと時刻を同期させるときは、[使用する]を選択して、サーバ名(またはIPアドレス)、確認時間とタイムゾーンを設定してください。

メモ サーバ名の入力例

- 192.168.11.123 (IPアドレスで指定する場合)
- ntp.buffalo.jp (サーバ名で指定する場合)

3-11 通信パケット情報

この画面では、有線LAN/無線LANの通信パケットに関する情報を表示します。(上の画面はWLAH-AM54G54のものです)

※ WDS(アクセスポイント間通信)機能を有効にし、通信可能なアクセスポイントを登録している場合、WDSの通信パケットも表示されます。

3-11-1 パケット数

有線/無線の各ポートで送受信されたパケットの数およびアクセスポイント間通信で送受信されたパケットの数を表示します。

3-11-2 エラーパケット数

有線／無線の各ポートで送受信されたエラーパケットの数を表示します。

3-12 PINGテスト

本製品と目的のパソコンが通信可能な状態かどうかをテストできます。
「宛先アドレス」欄にPINGテストを行う相手のIPアドレスを入力して、［実行］をクリックします。正常に目的のパソコンと接続できている場合は、次の例のように表示されます。

宛先	192.168.11.100
実行結果	Reply from 192.168.11.100: icmp_seq=0 ttl=128 time=256 ms Reply from 192.168.11.100: icmp_seq=1 ttl=128 time=235 ms Reply from 192.168.11.100: icmp_seq=2 ttl=128 time=227 ms

3-13 ログ情報

この画面では、本製品の動作記録を表示します。本製品の動作に異常がある場合は、ここから原因を探ることができます。
表示する内容は、以下から選択できます。

パケットフィルタ　：パケットフィルタに関連するログを表示します。
DHCPクライアント　：DHCPクライアントに関連するログを表示します。
無線クライアント　：無線クライアントに関連するログを表示します。
設定変更　：設定変更に関連するログを表示します。
システム起動　：システム起動に関連するログを表示します。
NTPクライアント　：NTPクライアントに関連するログを表示します。
その他　：上記項目いずれにも該当しないものに関連するログを表示します。

3-14 ログ情報転送

※利用するには、別途Syslogサーバが必要です。

この画面には次の項目があります。

- ログ情報転送機能
- Syslogサーバ
- 転送するログ情報のレベル
- 転送するログ情報

3-14-1 ログ情報転送機能

ログ情報を転送する機能を使用するかどうかを設定します。

3-14-2 Syslogサーバ

ログ情報を転送する場合は、Syslogサーバのアドレスを64文字以内で入力します。

3-14-3 転送するログ情報のレベル

転送するログ情報のレベルを設定します。

エラー　：エラー情報を転送します。
通知　：エラー情報以外に通知された情報を転送します。

3-14-4 ヘッダに付加する情報

ログ情報を転送する際に付加する情報を設定します。

MACアドレスとエアステーション名　：ログ情報が「有線側MACアドレス」＋「エアステーション名」＋「ログメッセージ」となります。
MACアドレス　：ログ情報が「有線側MACアドレス」＋「ログメッセージ」となります。

3-14-5 転送するログ情報

転送するログの種類を設定します。

パケットフィルタ　：パケットフィルタに関連するログを転送します。
DHCPクライアント　：DHCPクライアントに関連するログを転送します。
無線クライアント　：無線クライアントに関連するログを転送します。
設定変更　：設定変更に関連するログを転送します。
システム起動　：システム起動に関連するログを転送します。
NTPクライアント　：NTPクライアントに関連するログを転送します。
その他　：上記項目いずれにも該当しないものに関連するログを転送します。

3-15 設定保存／復元

この画面には次の項目があります。

- 現在の設定の保存
- 保存した設定の復元

3-15-1 現在の設定の保存

現在の設定内容をファイルに保存します。

3-15-2 保存した設定の復元

「現在の設定の保存」で保存されたファイルから本製品の設定を復元します。

⚠注意 保存したときよりも、本製品のファームウェアのバージョンが低い場合（バージョンダウンした場合）、設定を復元することはできません。

3-16 初期化／再起動

この画面で、本製品の設定内容をデフォルトに戻すことができます。［設定初期化］をクリックすると、設定初期化を実行し、本製品は再起動します。

▶参照 デフォルト設定は、別冊「導入ガイド」の「第4章　付録」－「4-2　デフォルト設定」を参照してください。

メモ ［再起動］をクリックした場合は、本製品が再起動するだけで、設定はデフォルトに戻りません。

3-17 ファームウェア更新

この画面では、本製品のファームウェアをバージョンアップすることできます。ファームウェアのファイルは、あらかじめパソコンにダウンロードしておいてください。

また、［ダウンロードサービス］をクリックすると、弊社ホームページへアクセスして、最新版のファームウェアをダウンロードすることができます。

ファームウェアを現在のものより古いものに変更した場合、設定内容が初期化されます。

3-18 AOSS

この画面には次の項目があります。

- 接続先情報
- 現在の暗号化情報
- 手動での暗号化レベルの設定
- AOSSボタンの有効/無効
- AOSSデータ設定の開始
- AOSSデータの削除

3-18-1 接続先情報

AOSS(AirStation One-Touch Secure System)を使用して本製品に接続した無線パソコンの情報を表示します。

3-18-2 現在の暗号化情報

AOSSにより自動設定された設定内容（暗号化レベル/ESSID(SSID)/暗号化キー）を表示します。

3-18-3 手動での暗号化レベルの設定

AOSSにより自動設定された暗号化レベルを手動で変更することができます。

メモ 暗号化レベルを変更することによって接続できなくなる無線パソコンがないかどうか事前に確認してください。

3-18-4 AOSSボタンの有効/無効

本製品のAOSSボタンを無効にするかどうかを設定します。無効に設定した場合、この画面で再度［有効］にするまで、AOSSボタンが機能しなくなります。

3-18-5 AOSSデータ設定の開始

画面のアイコンをクリックすると、本製品はセキュリティキー交換を行える状態（AOSS動作状態）になります。

メモ AOSSを使用して接続できる無線パソコンは24台までです。25台目以降は、AOSSを使用して接続できません。

メモ 下記の理由により無線機能が無効になっている場合、画面のアイコンはグレーになり、AOSSデータ設定を開始できなくなります。

・「無線機能」（P10）が無効に設定されている場合
・「タイマー機能」（P18）により無線機能が無効になっている場合

3-18-6 AOSSデータの削除

画面のアイコンをクリックすると、AOSSによって自動設定された設定内容を削除します。AOSSデータが削除されると、下記の項目が初期化されます。

接続先情報：AOSSを使用して接続した無線アダプタの情報（MACアドレス/対応暗号化方式/接続状態）が削除されます。
ESSID(SSID)：出荷時設定値に戻ります。
暗号化レベル：「暗号化しない」になります。
暗号化キー：無効になります。

第４章 リピータ（WDS）機能

この章では、無線ネットワークの範囲を拡大するために、本製品をリピータとして設定する手順を説明します。この構成には、WDS（アクセスポイント間通信）をサポートした2台の弊社製アクセスポイントが必要です。

メモ

・リピータ機能を使用する場合は、本製品のAOSS機能を無効にする必要があります。
・利用できる暗号化は、WEPのみです。
・無線パソコンから本製品の設定を行っている場合、WDS専用モードの設定を有効にすると設定パソコンから本製品へアクセスできなくなります。
　WDS専用モードの設定は、有線パソコンから行ってください。
・2台のアクセスポイントを同一ネットワークに接続した状態でリピータ機能を有効にすると、ループ現象が発生し、通信ができなくなります。
　リピータ機能の設定を行う場合は、リピータ機能の設定を完了させた後にネットワークに接続してください。

リピータ機能のセットアップ

距離が離れすぎていたり、途中に障害物があったりして通信できない場合でも、本製品のリピータ機能を使えば、電波の届かないエリアでも通信できるようになります。

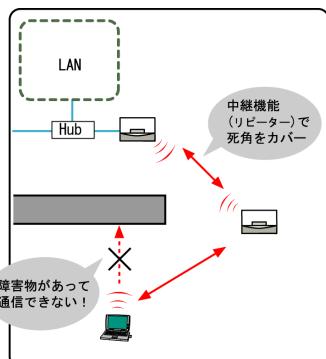
メモ アクセスポイント同士で通信するときは、すべてのアクセスポイントの無線チャンネルとWEPによる暗号化キーを同じに設定する必要があります。

MACアドレスの登録手順

ステップ1

第2章の「ブラウザから設定画面を表示する」を参照して、設定画面を表示させます。

ステップ2

［アドバンスト］をクリックし、［WDS］をクリックします。
（WLAH-AM54G54の場合は、画面上部の［WDS設定（802.11a)］/［WDS設定（802.11g)］で、設定を行う無線の種類を選択してください。）

ステップ3

「通信するアクセスポイントの無線側MACアドレス」欄に相手側のAirStation（アクセスポイント）の無線側のMACアドレスを入力し、［追加］をクリックします。

メモ

- 本製品の無線側MACアドレスは、本体底面のシールに記載されています。
- MACアドレスを入力するときは、下記の画面のように2桁ずつコロン（:）で区切って入力してください。

ステップ4

「アクセスポイント間通信（WDS)」欄の「有効」を選択して、[登録・保存］をクリックします。

ステップ5

「通信可能なアクセスポイント（表示／削除）」欄に、登録したMACアドレスが表示されているか確認します。

ステップ6

登録されていることを確認したら､別のアクセスポイントも同様にMACアドレスを登録してください。